

令和2年度 オホーツク海外海放流ホタテガイ貝柱歩留不良予報*

概況

歩留不良への警戒が必要です。春先の餌料環境はやや不良傾向があり、底層水温はやや高めに推移しています。

海域：オホーツク総合振興局管内東部海域

レベル：2

発生確率は短期でやや高く、注意が必要。長期も高めの傾向である。

予報期間：令和2年（2020年）6～7月（短期）

発生確率：0.58～0.60

予報期間：令和2年（2020年）6～10月（長期）

発生確率：0.40～0.42

海域：オホーツク総合振興局管内西部海域

レベル：2

発生確率は短期でやや高く、注意が必要。長期も高めの傾向である。

予報期間：令和2年（2020年）6～7月（短期）

発生確率：0.58～0.60

予報期間：令和2年（2020年）6～10月（長期）

発生確率：0.40～0.42

警戒レベル	意味
1	発生確率が極めて低い
2	発生確率は短期でやや高く、注意が必要
3	発生確率が高水準であり、警戒が必要
4	発生確率は最高水準にあり、十分な警戒が必要
5	広域・長期にわたり発生確率が高く、全域で十分な警戒が必要

注：貝柱歩留不良予報は、4、5月の4つの観測値、最大平均貝柱歩留、最大貝柱グリコゲン濃度、最大クロロフィル濃度、最大海水温差（最高水温－最低水温）から、6、7月の短期と、6～10月の長期の貝柱歩留不良を統計的確率モデルで予測しています。

* この予報は、北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究「ホタテガイ成長モニタリング調査」結果によるものです。